

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

ベネッセ雪が谷大塚保育園

大田区南雪谷 3-11-20

(株) ベネッセスタイルケア

1. 活動テーマ：音 対象児：全園児

<テーマの設定理由>

- ・音は乳幼児にとって最も分かりやすい探求対象であり、感覚的な楽しさから始まり、言葉や身体表現へと広がりやすい特徴があります。拍手や足踏み、楽器や環境音などを通じて子どもは違いに気づき、表現し、友だちと共有することで協働的な活動へと発展します。
音は家庭や地域とも繋がりやすいテーマです。家庭では「音探し」や「音日記」を通じて保護者と一緒に楽しむことが出来ます。さらに廃材や自然素材を使った楽器作りは環境意識を育み、持続可能な学びにも繋がります。これらの理由から、音をテーマにすることで、子どもの主体的な探求心を育み、感覚・言葉・表現・協働・環境意識といった多面的な成長を支えることができると考えています。
- ・日頃より幼児ユニット『ポルケ』との交流を行っていたので、子ども達に音への興味・関心があると考えました。また、近隣に区立小学校及び私立小中学校があり、吹奏楽などの音楽が聴こえてくることも多く音楽が身近にある環境にあることから音をテーマとしました。

2. 活動スケジュール

- ①身近な遊具を使って音楽会
- ②大きな音や楽器に触れる（ポルケさんの演奏から）
- ③『お楽しみ会』（保護者をお招きして楽器や歌などの表現活動）

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・マルチパーツ・積み木（円柱型）
- ・ペットボトル容器・どんぐり
- ・ピアノカ

4. 探求活動の実践

<活動の内容>

- ①身近な遊具を舞台やマイクに見立てて音楽会を楽しむ
⇒円柱積み木を掴んで歌を歌ったり、マルチパーツの上に乗ってみるなど個々の活動を真似て楽しむ姿から、保育者の働きかけによって『みんなで遊ぶと楽しい』『一緒に』など友だちとイメージを共有して遊ぶことの楽しさに気づくことが出来た。
- ②幼児音楽ユニット『ポルケ』による楽器演奏会開催
⇒『ポルケ』の演奏を聴き、本物に触れることで、より音への興味関心の高まりが感じられた。様々な楽器や歌声を思い出しながら遊具を楽器に見立てて演奏してみたり、歌ってみるなどの姿が見られた。その後、ペットボトル容器などの廃材や自然物を使った楽器作りへと発展していった。
- ③幼児クラスは演奏会后、お楽しみ会に向けてピアノカなどの楽器の演奏を楽しんだり、友だちと合わせて歌を歌うなど、活動の幅を広げていった。

<活動の様子がわかる写真、2枚以上>



5. 振り返り

・「音」をテーマに身近な音探しから廃材を使った楽器づくり、『幼児ユニットでの演奏』へと活動を広げた。子どもたちは園内や散歩先で聞こえる音に耳を傾け、違いに気づいたり言葉で表現したりしながら、音への興味を深めていった。廃材楽器づくりでは、自然物やペットボトルなどの素材を組み合わせ、どんな音が出るか試しながら工夫する姿が見られた。自分でつくった楽器への愛着も強く、完成するとすぐに音を鳴らして確かめる姿が印象的だった。幼児クラスの楽器演奏では、友だちの音を聴き合いながらタイミングや強弱を調整し、一緒に音をつくる楽しさを味わっていた。相談しながら表現をつくる中で、協力する姿や主体的に取り組む姿が育っていった。音を通して、聴く力・協働性・創造性が自然に育まれ、子どもたち一人ひとりの個性が響き合う豊かな活動となった。